

# 看護実践・キャリア 支援センター通信



2018年  
12月



## 地域貢献研修 急変時対応研修(在宅編)



# Vol.15

9月15日(土)に、当院の集中ケア認定看護師・特定看護師 山室俊雄氏と ICLS インストラクター 多田雄貴氏を講師に迎え、急変時対応研修を開催しました。

本研修は、超高齢社会の中で増える在宅看護のニーズの中で「ん?なんか変だな…」から急変時まで、もう一步踏み込む視点をシミュレーション形式中心に学びました。午前中は講義と BLS の演習、午後は、在宅での急変時の事例に対するグループワークが行われました。



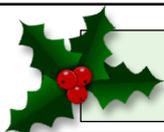
緊急時の手順を確実に



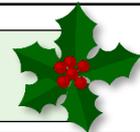
まず、ABCDの確認を

受講生は、ファシリテーターの助言を受けながら、緊急時の判断・応援要請・往診医との調整など、実際に現場で必要とされる手技等を繰り返し行いました。

お互いに意見を出し合い、対応を検討する中で、緊急時の対応で求められるものについての理解を深めていました。



## 育児休業者の復職支援サロン



看護師が出産後の復職にあたって、実際にどんな制度があるのか、どんな風な働き方があるのか、分からなければ不安だけが大きくなってしまいます。9月3日・14日、そんな復職を検討している育児休業中の看護師を対象に復職支援サロンを開催しました。

この時期は保育所の申込の直前であり、復職を考える看護師には重要な時期です。

人事課から制度の説明と、看護実践・キャリア支援センターからは、ナースングサポートの説明を行い、自分のこれからに関わる内容に、参加者の表情は皆真剣でした。お昼には、参加者と育児休業取得後に職場復帰している先輩看護師と一緒に昼食を取り、和やかな中で意見交換をしていました。

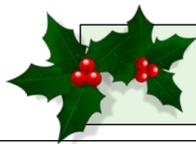
一人でも多くの方の復職の後押しになればと思います。  
第3回目の開催を2月に予定しています。



円座で説明を聞きます



リラックスした雰囲気です



## 新人看護職員対象 音楽療法のひととき



音楽は、全ての人の心を動かす力を持っています。音楽療法はその力を心身の障害や知能の回復、機能の維持・改善を目的に使い、その結果生活が向上するように行われる療法です。

9月27日・28日、音楽療法士事務所「音縁」の音楽療法士、西村仁美先生・岡本美代子先生を講師に迎え、新人看護師の心身のリフレッシュを図りました。

講師が家族の看取りで体験されたお話は、心に響くもので、皆真剣な表情でした。その後、実際に楽器を鳴らしたり、みんなで懐かしい歌を歌ったりして音楽療法を体験する中で、参加者の表情が明るくなり、恥ずかしがって小さかった声もだんだんと大きくなり、教室が暖かな雰囲気になっていきました。

普段の生活で行き詰ってしまった時、音楽をきっかけにして心身をほぐしてみよう…そんな気持ちになるひとときでした。



心を動かす「音楽利用法」



段々なごやかな雰囲気に…



## 明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術看護研修



看護の現場では褥瘡対応の的確な知識が求められる状況が増えています。

10月13日（土）、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師西林直子氏と鈴木千明氏を講師に、演習を通して具体的なベッドサイドの「臨床力」を身につけるための研修を行いました。対象は褥瘡の基礎的知識のある看護師で、褥瘡発生要因に対するケア方法、局所処置方法、DESIGN-Rに基づいた外用薬の選択等について学びました。

講義は褥瘡の外用薬、被覆材、ガーゼ、テープの選び方等、実践に活かせる内容ばかりでした。

また、オムツ着用や様々な専用のピローを使ってのポジショニングの体験もあり、患者側の思いも感じ取っていただけました。

なお、申込多数により受講できない方が出たため、来年3月に再度、同研修の開催を予定しています。



ベッドサイドでの実践



おむつの正しい使い方

## 摂食嚥下障害看護研修



食べるという機能が落ちると栄養不足から身体能力も落ちます。また嚥下機能の低下は誤嚥性肺炎を引き起こす要因となります。

11月17日(土)、当院の摂食嚥下障害看護認定看護師、長谷川陽子氏と齋藤和博氏を講師に、摂食嚥下障害看護の研修を行いました。

午前中は摂食嚥下障害のメカニズムについて基礎的な知識について学び、午後からは口腔ケアや食事援助の演習を行いました。

演習では参加者全員が患者体験をすることで、口腔ケアの際に患者に対して気をつけるべきことが良く分かったと好評でした。



## 対人援助の基礎知識・技術ベーシックコース 始まりました

看護の現場では、患者やその家族との信頼関係が大切です。11月6日(火)から開催しているこの研修では、全6回コースで信頼関係を築く方法として、心の仕組み・働き等の基礎知識から実際のカウンセリング場面に活用できる演習を取り入れながら学んでいます。現在、附属病院の臨床実習指導者18名が受講し、第4回までが終了しています。

この研修が臨床現場での円滑なコミュニケーションの助けになることを期待しています。



相談役と聴き役に分かれて演習中

## 看護学科学生へのキャリアデザインプログラム 看護職として自らのキャリアデザインを描く

11月28日、本学の看護学部4年生と看護部スタッフ希望者を対象に、オフィス KATSUHARA 代表 勝原 裕美子先生を講師に迎えて、看護職のキャリアデザインについての講演会を行いました。勝原先生は、社会人になってから改めて看護師資格を取られています。看護現場でのリアルティ・ショック等の経験を乗り越えて、社会人としてどう生きていくのか、ご自身の経験をもとに語られました。人との出会いを大切にしながらマイナスも含め様々な経験をキャリアとして捉え、「初心忘るべからず」を“失敗を忘れないこと”という意味で用いられた勝原先生。

「キャリアは早い遅いではない。自分自身で評価するもの。自分で積み重ねていくもの。自分の人生のプロセスである。」という先生の言葉が、来春、社会に出て行く学生達の心に響いたようでした。



「キャリアは自分で積み重ねていくもの」



## がん放射線療法看護研修



放射線療法とは・・・



放射線治療室を見学しました

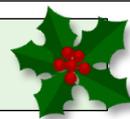
12月1日、当院のがん放射線療法看護認定看護師、吉田紗弥佳氏を講師に、『放射線治療をもっと身近に！』というテーマで研修が行われました。

放射線療法の基礎知識や原理については、“難しい”イメージが強いようですが、分かりやすかったと好評で、患者の有害事象への対応や、セルフケアを支援する看護の視点での理解が深まったようでした。また研修では、治療の現場である放射線治療室の見学もあり、講義での話がつながり、理解が深まったようです。

がん患者と向き合うことの多い受講者からは、「明日からの看護に活かせる」「患者さんへの説明に使える」「晩期後遺症について悩む方に、何かできることがないかフォロー体制として模索中です」等の、声が聞かれました。今後、放射線治療を受ける方への看護に活かしていただけることを願っています。

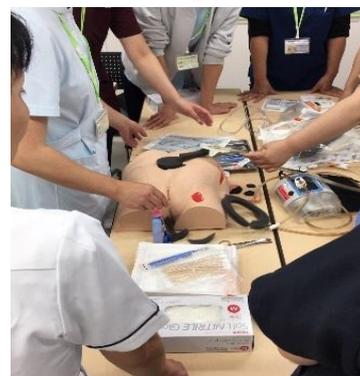


## 看護師特定行為研修(在宅コース)



平成30年4月より開講いたしました看護師特定行為研修(在宅コース)の1期生8名が、4月よりe-ラーニングでの学習、シミュレーターを用いた手技練習、症例検討、OSCEを経て11月より当院を含め、県内11施設での実習を開始しています。指導者や各部署のスタッフの皆様の協力のもと、日々経験を重ね、学びを深めながら頑張っています。

平成31年4月開講在宅コース2次募集もしておりますので、ご興味のある方はぜひ応募してください。 陰圧閉鎖療法研修中



## 今後のセンター事業

- ☆「実習指導者の教育能力育成プログラム 臨床実習指導者研修」  
日時:平成31年1月11日(金)9:00~12:00/13:15~16:15(2部入替制)
- ☆「育児休業者の復職支援サロン」  
日時:平成31年2月 未定
- ☆学生へのキャリアデザインプログラム「～*C'mon baby* 奈良医大♪～」  
看護学科3年生と看護部リクルートメンバーとの交流会  
日時:平成31年2月27日(水)1部:13:30~16:45、2部:17:15~18:30
- ☆「明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術研修」  
日時:平成31年3月9日(土)10:00~15:00
- ☆「特定行為研修生・上級臨床指導者育成プログラム受講者 報告会」  
日時:平成31年3月 未定

